

# 株式会社フィスコ 第27期 株主通信

(自 令和2年1月1日 至 令和2年12月31日)



株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第27期(2020年1月1日から2020年12月31日)の当社グループの決算が終了いたしましたので、ここにご報告申し上げます。

第27期につきましては、当社事業の情報サービスと関連性の高い国内株式市場におきましても、新型コロナウイルス感染症拡大(コロナ禍)の影響により、日経平均株価は2020年3月に一時16,000円台まで急落しましたが、徐々に回復し、前年末終値より3,787円高値の27,444円17銭で年内の取引を終えました。コロナ禍収束の兆しが見えない状況が続く中、足元ではワクチン普及への期待とともに、同感染症の拡大防止対策を講じつつ、徐々に経済活動の正常化への動きが進むものと想定されます。

当社の持分法適用関連会社の株式会社Zaif Holdings(2020年11月1日付で、株式会社フィスコデジタルアセットグループより商号変更)の子会社である株式会社Zaif(以下、Zaif。2020年11月1日付で、株式会社フィスコ仮想通貨取引所より商号変更)は、2019年6月21日に、金融庁より資金決済法に基づく、業務改善命令を受けておりましたが、2020年8月31日に継続的な報告義務が解除されました。引き続き当社グループでは、暗号資産の情報、交換所、同システム、金融仲介機能を網羅し、暗号資産による一気通貫のサービス提供を可能とすることを成長戦略としています。また、当社は2016年に企業トークンであるフィスココイン(略称、FSCC)を発行しており、FSCCを当社個人向けサービスである「クラブフィスコ」における決済通貨として採用するなど、暗号資産分野において積極的な取り組みを行っております。FSCCを決済通貨として利用促進することで、利用者が様々なメリットを享受できるようなフィスココイン経済圏の形成に取り組んでいます。

引き続き当社グループ全体では、主力事業である情報サービス事業の安定的な収益を確保しつつ、暗号資産にかかるサービス提供に特化した成長に向けた戦略展開を行うとともに、経営の合理化及び意思決定の迅速化を図り、業績の早期回復に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社第27期事業年度(令和2(2020)年1月1日～令和2(2020)年12月31日)が終了いたしましたので、当期における当社の事業概況についてご報告申し上げます。

また、令和3(2021)年3月30日には第27回定時株主総会を開催し、招集ご通知にてご案内のとおり、報告及び決議を下記のように行いました。

### 記

#### 報告事項

第27期(自 令和2(2020)年1月1日 至 令和2(2020)年12月31日)事業報告、計算書類及び連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件

本件については、上記の内容を報告いたしました。

#### 決議事項

##### 第1号議案 剰余金の処分の件

本件は、原案どおり承認可決されました。

##### 第2号議案 定款一部変更の件

本件は、原案どおり承認可決されました。

##### 第3号議案 取締役7名選任の件

本件は、原案どおり承認可決されました。

##### 第4号議案 ストック・オプションとしての 新株予約権を発行する件

本件は、原案どおり承認可決されました。

以上



相当)を贈呈しているが、2020年12月期末の株主からは、自社の暗号資産であるFSCC500円相当の進呈もスタートさせている。なお、FSCCの価格は2020年1月から1年間で14倍以上に上昇している。

ちなみに、CAICAやネクスグループなどは非連結化されているが、資本業務提携に基づく協力関係が十分に築かれており、今後もフィスコ

と協調しての取り組みを行っていくことが見込まれている。グループ再編の結果、現在のフィスコの事業セグメントは、個人向けサービス、企業IR支援サービス、法人向けリアルタイムサービス、アウトソーシングサービスなどを展開する「情報サービス事業」「広告代理業」「暗号資産・ブロックチェーン事業」の3事業となる。

#### 通期連結業績の推移 (単位:百万円)

決算期	売上高	対前期増減率	営業利益	対前期増減率	経常利益	対前期増減率	親会社株主に帰属する当期純利益	対前期増減率	EPS (円)	配当 (円)
2017/12期	14,620	4.4%	7	—	△59	—	636	—	16.73	3.00
2018/12期	11,168	△21.7%	△1,074	—	△2,644	—	△2,255	—	△56.25	0.00
2019/12期	5,789	△48.2%	△586	—	△984	—	△666	—	△16.13	0.50
<b>2020/12期</b>	<b>1,119</b>	<b>△80.6%</b>	<b>61</b>	<b>—</b>	<b>△127</b>	<b>—</b>	<b>66</b>	<b>—</b>	<b>1.48</b>	<b>3.00</b>
2021/12期予	1,074	△4.0%	76	22.6%	231	—	226	240.2	4.96	3.00

(注) 2018/12期以降の数値は、2019/12期の大規模な組織改編が反映されています。

### 新規サービスなどを積極的に投入し中期的な事業拡大を図る

主力事業である情報サービス事業においては、コンテンツのリニューアルを行った個人投資家向け販売サイト「クラブフィスコ」で、自社の投資レポートはもちろん、フィスコソーシャルレポーターをはじめとした著名な個人投資家の投資手法をまとめた投資教育教材の拡販を推進し、安定的な収益確保につなげていく計画。新規事業領域としては、ヘッジファンド向け投資助言や機関投資家向けアナリストレポート販売のほか、個別に金融・経済情報を提供するサービスなども稼働させている。投資教育、暗号資産など今後も個人投資家の関心が高い分野において、動画による投資教育講座、アナリスト養成講座など収益化に向けたサービスメニューのラインナップを強化していく方針。

企業IR支援サービス分野では、組織力やブランドの強化を図ること、統合レポート、アニュアル・レポート、ESGレポート、並びに英文翻訳

業務の拡大を目指す。中核サービスの企業調査レポートにおいては、効果的なIRコミュニケーション・サービスの需要を引き続き取り込む方針。同分野では、2021年12月期に契約社数1,000社を目標に掲げていたが、コロナ禍の状況下、達成目標を2023年12月期に変更している。このほか、企業の非財務情報を適時配信するソリューション提供サービス、国内上場企業から海外機関投資家への情報発信に関するアレンジメントサービスなども取り込み、企業のIRに関する課題をワンストップで解決できる体制構築と事業拡大を目指す。

広告代理業では、紙媒体中心の広告業務から、バナー広告、ネット動画制作などの広告におけるトレンドや媒体特性なども踏まえて、企業IRや広告における提案力の強化を進めながら、1件当たりの受注金額の大型化に向けた販売強化を図り、収益性の向上につなげていく方針だ。

### 暗号資産による一気通貫サービスの提供が成長戦略

フィスコではグループとして、暗号資産の情報、交換所、同システム、金融仲介機能を網羅し、暗号資産による一気通貫のサービス提供を可能とすることを成長戦略としている。また、2016年に企業トークンのFSCCを発行しており、FSCCを決済通貨として利用促進することで、利用者が様々なメリットを享受できるようなフィスココイン経済圏の形成にも取り組んでいる。将来的には、新たなデジタル金融事業・デジタル金融商品市場を積極的に創出していき、デジタル金融商品・市場情報の先駆者としての位置づけを高めていくことを目標としている。

持分法適用関連会社に、CAICAの連結子会社となった「Zaif Exchange」を運営するZaif Holdingsを有している。Zaifは2019年6月に金融庁から資金決済法に基づく業務改善命令を受けていたが、2020年8月には継続的な報告義務が解除されている。「Zaif Exchange」の口座数は現在約32万口座となっている。足元ではビットコイン価格の急騰などを背景に取引が活発化し、手数料収入が拡大方向となってきている。今後は手数料収入のほか、差金決済取引やオプション取引などのサービス拡充も

予定している。フィスコとしては、Zaifを中心とする暗号資産関連事業の拡大に向けた役割として、個人投資家マーケティングやB to B事業の連携において、現在抱える広範なネットワークが活かせる形になる。

フィスコの企業価値向上に向けて、FSCCの価値向上を図る施策も進めている。スマートコントラクトを利用したバーチャル株主総会の議決権行使、株主優待アプリケーションの開発などインフラを充実させているほか、海外投資家への認知度向上のため、Hotbit、FinexBox、ProBitなど海外交換所への上場による流通の促進を図っている。また、「クラブフィスコ」やクシム子会社のイーフロンティアが運営するイーフロンティアストア、さらには、きちりホールディングスの飲食店舗などでFSCCを決済通貨に採用する動きも進めている。



アナリスト 佐藤勝己

## 会社概要 (2020年12月31日現在)

商号	株式会社フィスコ
本社	東京都港区南青山五丁目13番3号
登記上の本店所在地	大阪府岸和田市荒木町二丁目18番15号
代表者	代表取締役社長 狩野 仁志
設立年月日	平成7(1995)年5月15日
資本金	100百万円
決算期	12月

## 役員 (2021年3月28日現在)

代表取締役社長	狩野 仁志
取締役	中村 孝也
取締役	松崎 祐之
取締役	深見 修
取締役	佐藤 元紀
取締役	中川 博貴
取締役(社外)	木呂子義之
常勤監査役(社外)	望月 真克
監査役(社外)	加治佐敦智
監査役(社外)	森花 立夫

## 株式の状況 (2020年12月31日現在)

発行可能株式総数	100,000,000株
発行済株式の総数	45,776,722株
株主数	12,473名

大株主(上位10名)	所有株式数(株)	持株比率(%)
シークエッジ インベストメント インターナショナル リミテッド	13,900,000	30.43
株式会社ネクスグループ	6,721,400	14.71
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	977,200	2.14
株式会社サンジ・インターナショナル	788,000	1.72
狩野 仁志	664,322	1.45
株式会社CAICA	575,000	1.26
トムソン ロイター(マーケッツ) エス エイ	550,000	1.20
J P モルガン証券株式会社	527,000	1.15
荒川 忠秀	318,000	0.70
須長 憲一	300,000	0.66

- (注) 1. 持株比率は自己株式(91,701株)を控除して計算しております。  
2. 持株比率は小数点第3位以下を四捨五入して表示しております。

## 株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日
期末配当金受領株主確定日	12月31日
中間配当金受領株主確定日	6月30日
定時株主総会	毎年3月
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関 同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所 公告の方法	東京証券取引所 JASDAQ 電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://www.fisco.co.jp/notification/index.html">http://www.fisco.co.jp/notification/index.html</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞にて公告いたします。)

### ご注意

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。

**Zaif**

**仮想通貨取引(暗号資産)  
をもっと安心・安全に**

ご質問・お問い合わせ  
<https://zaif.jp/contact>

Zaif Exchange  
(暗号資産交換業者 近畿財務局長00001号)